

社会福祉法人 友愛十字会

ゆうあい

1988

1・1

No. 6

題字 前総裁 三笠宮崇仁親王殿下



車椅子の青年と子供のふれあい(世田谷3施設の文化祭にて)

主な記事

- より発展の年に 理事 町田 英一
- 美しくすこやかな老後の健康 友愛荘老人科医師 柳沢 博子
- ハワイ支部の解散について 法人本部事務局
- 突き指して改めて見直した左手 世田谷更生館
- 入所者の職業訓練 東京都ろうあ者更生寮
- 入所者寸描 ある老人の歩み 友愛荘
- 「歩け歩け運動」実施中 友愛ホーム
- 古寺名刹めぐり 高幡不動尊金剛寺 友愛荘



より発展の年に

理事 町田 英一

一九八八年の新しい年を迎えた。

昨年もわれわれ福祉関係者にとつては、「社会福祉士及び介護福祉士法」の制定や「精神衛生法」を改正して「精神保健法」にするなどの大きな意味をもつ進展があった歴史的な年となった。その趣旨は、いずれも、在宅福祉施策の充実を図ることと、福祉・保健、医療各施策の連携を強化することにあつた。

思えば戦後四十年余、わが国の社会福祉もコミュニティ・ケアや、ノーマライゼーション等の理念、処遇方式の変化等から、多種多様な社会福祉ニーズに対応すべき普遍化の時代を迎え、在宅福祉サービスの具体的メニューがいろいろと工夫されるようになり、さらに進んでようやく保健、衛生、住宅等の隣接分野との連携い方式も考えられるようになってきた。

昨年十一月、東京都社会福祉協議会が主催した第三十六回社会福祉大会のシンポジウムのテーマも「在宅福祉サービスの総合的展開をめざして」であつた。その中で、シンポジストの橋本正明氏（至誠特別養護老人ホーム施設長）は、施設は地域での在宅サービスの専門的な供給団体であることを力説していたが、このことには施設が入所者の処遇についての専門機

関であることから社会的に期待される当然の帰結、と云うこと以上の意味が含まれている。即ち今日では、新設の特別養護老人ホームには、殆んどショートステイ、入浴サービス、機能訓練、給食サービスなどの在宅支援機能をもつ高齢者在宅デイサービスセンターが併設されるようになり、制度として定着するようになってきた。しかし、施設が在宅サービスの専門的供給団体であるということは、単に処遇的な専門技術をもつて、施設が対象者との間に線的な意味でサービスを提供するという利用関係をもつということに止まらず、地域における在宅福祉サービスの組織化という、いわば面的な意味でのより積極的な役割が期待されているということを示唆しているのである。

このことの背景には、さきに述べたような社会福祉の普遍化という展開があげられる。

社会福祉ニーズの多様化に対応すべく公私のサービス提供の多様化が、効果的な地域福祉サービスのシステム化という課題を生み出してきたことから、福祉の隣接分野をも含めた社会福祉の総合化の必要性を要求するようになり、その中で施設のもつ積極的な役割を浮き彫りにしてきたというわけである。

新しい年を迎え、われわれ施設の関係者もこの時の流れの意味を的確にとらえ、地域での期待にきびしくかつ開拓的にそつてゆかなければならないと思う。（東京都社会福祉協議会 元東京都民生局長）

美しくすこやかな老後の健康

友愛荘老人科医師 柳 沢 博 子

「老人科というのは、何か特別な診療方法や、技術の開発がなされて出来たのか」という厳しい質問の前に、私は困惑することがある。勿論、正直いって、特効薬のような技・法などないにもかかわらず、現在では、殆んどの医学部にそれが設けられたのは何故であろうか。もとより昔からも老人の診療がなされてきた。その医療の現場から、自然発生的に「老年者への医療はこれでいいのだろうか——」という疑問が生れて来た。この背景には「病気を癒すこと」を大前提においた従来の医学の考え方以外に、老人の健康問題には、いまひとつ新しい視かたを必要としたからではなからうか。

昭和四十五年頃、未曾有の高齢化社会の到来に先駆けて、東大、京大、日本医大の医学部に「老人科」が新設された。以来、老人医学の進歩には目覚ましいものがある。

当時、私が日本医大で診た八十歳と、昨今、目のあたりにする八十歳とでは、まことに隔世の感がある。

今年の敬老の日には、長野県の百十一歳の女



性を筆頭に、百歳以上の老人が二千二百八十人を越えたと、マスコミは報道していた。

「美しく、すこやかな老後を」は、今では夢ではなくなったのである。多くの老年者が、なんらかの慢性疾患を持ちながらも、医療管理と本人の自覚によって、「一病息災」の俗諺よろしく、それ相應に、新しい時代に意義を見つけて、積極的に取り組んでいるのが見られ、こころ強い。私は、特別養護老人ホーム友愛荘で、八十人

余りの老人とそこで働く職員の健康管理を行っている。診ていて常に思うことは、人間のからだの神秘性には驚嘆するばかり。コンピュータなどと比較にならない精巧な制御力。そして美しい心。その上、病気で倒れても、なんとかして元に戻そうとする自然治癒力をも兼ね備えている素晴らしさ。このように、かけがえのない天来のからだを、私たちは、むやみに損うことのないように、年とともにますます注意深く、大切にしなければならぬと思う。

そこで、この機会にお年寄に提唱したいことを二つ三つ。

まず、①毎日の生活（目覚め、食事、運動、排泄、睡眠）を規則正しくリズムカルにして頂きたい。老年者のからだには、生活習慣の変化が、即ストレスにつながるからである。

②めいめいの個性、能力の範囲のなかで無理なく過してほしい。要するに、我慢して、まわりと足並みを揃えようとしたり、逆に、なんでも年のせいにして投げ出してしまわない。年をとると、心身共に、個人差、適応力は違うのが普通である。

③そして出来るだけ運動をすることである。この場合の運動とは、心身を動かすことであって、いわゆるスポーツの類ではない。何もしないうると、手足の筋肉から目立って衰えがくるし、血液の循環が不足して内臓の働きが弱くなる。

頭脳も同じ。使わなければ鈍るばかりで、ついには話す言葉さえ失ってしまう。このことは、老年者には適度の運動による心身の刺激が、いかに必要かを意味する。

貝原益軒の養生訓に「こころを安らかにして、身を勞せしめよ」とあるのは、このあたりのことであろう。お年寄り自身も、老人医療などにかかわるものも、よくこのことを噛みしめてみたい教訓だと思っている。

次に、老人の処遇に当たる職員の方々に望みたいことを述べてみよう。

老人の健康問題は、基本的には老化に深く根づくものである。従って、医療処遇に際しても治療そのものよりも、よりよい生活環境を整えて、人間自然の営みに則した日常生活が、安心して出来るよう側面的なケアを目標とし、ついで、代謝、予備力の低下などを考慮して、例えば薬剤による医原性（薬や治療技術の不適合が原因でなる病気のこと）、過安静の結果の廃用症候群等々、常に「過、不足におちいらぬ介護」のありかたが肝要である。

なお、心理面では、老年者は多少にかかわらず、自立性と、依存性の二面性を併せもつものであり、およそ八十歳以上では、保護処遇に、それ以前の年齢では、むしろ残存機能の開發的処遇への配慮が望まれる。

当然のことながら、老年者に対する特有の医

療技術というものがあるわけではなく、老年者の特性をふまえて、同一技術の使い方や、医療処遇の進め方を個々別々に、きめこまかくされねばならぬ点において、成人のそれを若干心がまえを異にする必要がある。

二十一世紀の高齡者社会は、目前まで迫ってきた。

これからの特養ホームの運営で緊要なことは、高質の「生活処遇」と「医療処遇」を、車の両輪のごとく、どのように調和させ進展させるかが、特養ホーム本来のキーポイントとして、最重要課題ではなからうか――。

ハワイ支部の解散について

法人本部事務局

友愛十字会にとつて、法人設立の源動力となり、今日の法人の基礎を作っていた大恩のあるハワイ支部は、本会と共に三十有余年間歩み続けて参りましたが、今年五月、遂にその歴史を閉じることになりました。本会とハワイ支部との関係につきましては、本誌第二号の「友愛十字会小史」と、第四号の葛西理事にご執筆を願った「友愛十字会発足当時の思い出」に記されているとおりであります。

しかし、時代の経過と共に会員の皆さんの高



友愛十字会ハワイ支部の会員（昭和45年9月）

齡化が進み、ここ数年来は活動も困難となっていたようですが、遂に解散の日を迎えたわけです。永年にわたり本会のためにご尽力賜ったハワイ支部の、今は亡き方々、並びに解散時の会員の皆様に感謝をこめ、心からお礼を申し上げます。お別れする次第です。

突き指して改めて見直した左手

世田谷更生館

よくよく見ると関節部は二倍くらいに腫れて無残に変形しており、その部分を流れる血液をカウントしているような痛みさえ感じました。

友愛十字会には、世田谷三施設の職員による野球部があります。先日、取引きのある協和銀行祖師谷支店のチームと親善試合を行い、草野球らしい接戦の末、辛勝しました。当日はレギュラー二名を欠いたためポジションの変更があり、監督命令によりこの五年間で二、三イニングしか経験のないキャッチャーを任せられました。試合開始後数イニングは盗塁は数多く許したものの無難にこなしただけで、このままだけかと思っていたところ、中盤になって不慣れによるキャッチングのミスのため、ボールを右手の指に当て第三、四、五指を突き指してしまふ思わぬアクシデントに見舞われました。その瞬間激痛が走りシビレがひどかったため、水で患部を冷やす等の手当をマネージャーから受けました。

試合後も少々の痛みが残りましたが、二十年前頃の経験から判断して、突き指など数日経てば完治するものと高を括っていました。ところが翌朝目を覚ましていつものように起き上がろうとしたところ、右手に力を入れることができないばかりか、無理をするとひどく薬指が痛み、

それ以来、右手の動きが大巾に制限され薬指を庇った不自然な動作しかできなくなりました。右利きの私は、日常生活上の右手指の機能の大部分を左手一本に頼るといふ毎日になったわけです。つまり、洗面、衣服の着脱、入浴等々、歩行以外の全ての動作に、右手は主導権を失ったばかりか、これまで左手が行っていた利き手に対する補助的動作まで要求されることになったのです。日が経つにつれて突き指の痛みは少しずつとれてきましたが、機能が仲々元に戻らないため相変らず不自由な生活が続き、改めて左手指の重要性を知ることができました。怪我の功名であったと思います。

このような貴重な体験を通じていくつかのことを学びましたが、その中で特に強く印象に残ったことを紹介しようと思います。

そのひとつは、右手指が使えなくても左手で箸を想像以上に使えたことです。細かな動きは困難でしたが、無器用な人の利き手以上に働く左手に対し、動かぬ右手から賛辞がおくられました。また、食事の際、これまで左手は茶碗を

巧みに傾けながら箸を使う右手の手助けをしていたことも判かりました。この点は右手に求めても即応することは困難で、両手の共用動作が複雑な働きをしていることを痛感したのです。

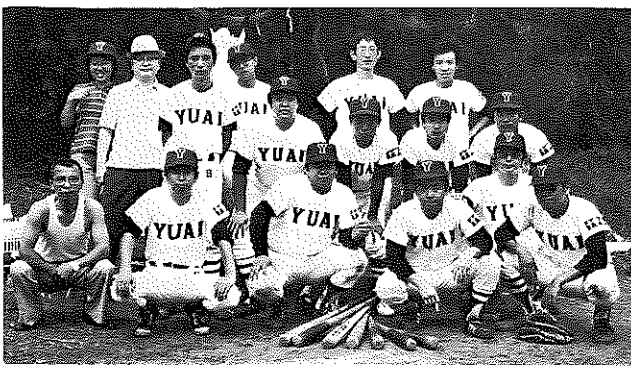
今ひとつは、左手が主役を演じていた動作の中にボタンかけがあったことです。実験的に比較してみたところ、倍以上のスピードが左手にあったのです。

短期間ではありましたがImpairment(機能的障害)の状況下に我が身を置き、どのようなDisability(能力的障害)が存在するかを体験できたことにより、ま

たひとつ視点が増えたように感じました。

今、まだ少し痛みの残っている右手薬指に有難うと感謝しているところです。

(指導員
丸山和三)



入所者の職業訓練

東京都ろうあ者更生寮



「もしもし更生寮さんですか、昨日から実習に
来ているお宅のAさんですが、ちよつと手がか
かりすぎて面倒をみるのは無理なようですね」
という電話が入る。この会社は、聴覚障害の人
を扱うのが初めてではない。以前から寮の利用
者の実習を受け、寮の修了者を含めて、数名
の聴覚障害者を雇用していただいている企業で

ある。前にはAさんと同
じ程度の障害者でも、比
較的長期に実習をしても
らえたのだが、最近は一
日目位で結論が出されて
しまう。

「Bさん、面接どうだった」「こんどもだめ」と
それでも明かるく手話で「またさがすの」という。
今度の面接は五回目位である。

「今日もまたお宅に向くような求人はないです
ね、一般求人のカードもしらべますか」職業安
定所の特別援護部門の顔なじみの職員であるC
さんは、すまなそうな顔で言われる。利用者を連
れて、池袋、新宿、飯田橋、王子ときには足立職
安にも足をのばすのだが、指導員の足は重い。

これは最近の更生寮で目にする状況です。

更生寮での更生訓練は、生活、コミュニケーション、
職業の三つを柱にしています。この中でも、
利用者が家庭等の庇護から独立して社会自立が
できるようになるためには、日常生活の中の
「生きがい」ともなる働く喜びをもたせ、労働収入
によって経済的安定も図らせる職業訓練は、
最も重要なものの一つです。

更生寮の職業訓練の特徴は、一般企業にお願
いして、実習や雇用の形で寮から通勤しその企
業の業務に従事する中で、寮指導員が職場巡回
し企業の指導職員と協力して利用者の技能の習

熟と就労持続を図っていることです。

現在、更生寮の職業訓練では、いろいろ多く
の問題を抱えています。

● 基本的には日本の産業構造の変化の中で第
二次産業の技術革新による機械化が進み、比較
的低い労働力でも稼働することができた単純軽
作業分野の減少傾向が著しいことです。

● 更生寮利用者は、障害の重度、重複化の傾
向が強くなっていますが、決して稼働力がないの
ではなく、企業側の皆さんにご協力を願うには無
理な点もあるのですが、ごく細かい個別的な援
助指導を必要とする者が多くなっているのです。

● 円高経済の影響から、とくに輸出関連の下
請の中小企業の不況によって、利用者の適応職
場が激減していることもあります。

現在、利用者の七〇%の者が、一般企業にお願
いする職業訓練に入れないでいます。「前訓練と
いうことで、職能判定訓練と同時に、手先作業の
習熟と、一定時間就労する持続力の育成、工賃
受給の経験をつませるために、寮内でタワシの包
装仕上と、下着の糸切りアイロン仕上の内職的作
業を企業のご協力で受注し作業させています。

以上のような更生寮の職業訓練の現状につい
て、企業関係者の皆さんのあたたかいご理解と
ご協力をいただき、一人でも多くの利用者が就
労自立の途に入ればと願っています。

(寮長 山崎輝久)

入所者寸描

ある老人の歩み

友愛荘

今日の昼食のメニューは、盛りそばである。

「どんな料理よりも、麺類がだい好き」はつきりといつもにこやかに答えてくださる松村さん。どこことなく上品で端正なマスクは、若々しくとても七十七歳の喜寿を迎えた人とは思われない。

この人、松村ユキさん。明治四十三年生れ、福島県田村郡三春町の荒物屋を営む商家の六人兄弟の次女として育った。三春町といえば、日本三大桜の滝桜、民芸品の赤ベコ、三春駒等が全国的に有名なところである。

大正十一年三春町尋常小学校卒業と同時に、上野御徒町で洋服屋を営む長兄が上京を呼びかけたことから、一家揃って転居。その日本人離れした顔立ちは、日活映画からお声がかかったとか。——今でいえばアイドルスターの候補生ではなかったろうか。十七歳の時、「森永キャンデー」で女店員を三人募集したところへ百人が応募。その中の一人に採用されたという、なかなかの美人であつたようだ。その後ハビリオ化粧品宣伝にモデルさんとして活躍した松村さんを、世の男性が放っておくわけがない。降るよ

女の二子をもうける。

順風満帆と思つたのも束の間、昭和十九年大東亜戦争が激化しご主人は軍隊へ、一家は主人の郷里、群馬県勢多郡大胡町へ二人の子供と疎開した。

翌年終戦、ご主人は復員し大胡町に新居を建て、平穩無事に暮していたが、忘れもしない昭和二十二年九月十五日突如襲つたキヤサリン台風の鉄砲水で、家財は勿論のこと可愛い娘までも流されそうになり、これを必死に助けよう

うに沢山の縁談のある中で、二十一歳の時、松方公爵の会計事務をしていた松村氏に見染められて結婚。大田区の荏原中延に新居を構え、長男と長

としたご主人は足を骨折した。そして一家もろとも裸一貫に。しかし、会津魂の血をひく気丈さはどんな苦勞にもめげず、二人の子供を立派に育てあげた。

昭和四十九年には、苦樂を共にしたご主人が他界。そして二年後ご本人は、半生の無理がたたつてか突然襲つた脳血栓で左半身が不自由に、その時のショックはいうまでもない。何もする元氣もなく、生きる氣力さえも失いかけた。

ある日、不自由ながらも周りの人が、びっくりするほどの精神力が芽生えたという。その原動力は、いったいなんだろうかと尋ねると、「娘に心配かけたくない。孫のためにも、よいおばアちゃんでなければ——の一念発起」からだと思ひを浮かべた。主婦で二人の子持ちとなつた娘さんが、母の背中を見ながら「お母さんが、いてくれたからこそ、私たちの今日があるのよ——」としみじみ述懐していた言葉を思い出す。

やはり人生には、みずからの目標となる標識や、指標が鮮明であれば、どのような苦情にも耐え忍び得るのではなからうか。これからも最愛の娘さんとお孫さんのためにも寝たきりの不自由を克服しつつ、米寿……さらには、白寿をゴールに掲げ、生きがいのある第三の人生を有意義に過ごして頂くことを願わずにはいられない。



「歩け歩け運動」実施中

友愛ホーム

「お早うございますノ九時二十分より歩け歩け運動を行います。皆さん、ご参加下さい」——寮母室からの朝の声掛けも、三年目を迎えました。今では、この放送も必要がないと思われる程、皆さんの積極的な参加が見られます。自治会の方の協力で、参加カードにハンコを押していただき、毎月、参加した日数がわかるようにしています。

「今日は、皆勤賞もんだよ」

「病院通いが多くて、今月はこれきりしか歩けなかった。来月は頑張るよ」

こんな声を耳にし、生活の流れにすっかり定着したことを感じます。

歩くコースは、わが十字会のまわり——世田谷通り沿いから、静かな住宅街のあいだをまわります。遠まわりが少々きつい方は、十字会の敷地内をぐるり一週というコースです。手を引き、引かれ、また走るようにまわる元気な方……様々な姿が見られます。

雨天以外は毎日歩いておられますので、何といっても木々の、そして花々の様子を心を動かさ

ます。ちよつと失礼をしてご近所のお庭をのぞかせていただければ、ホームでは見られぬ花々や緑に話はずみ、そして犬を連れたご近所の方、また垣根越しに声をかけて下さる方々との会話……。ホーム生活の中では得がたいモノとのふれあいがあります。

「このゆず、お持ちになって下さい。今年はいっぱい生ったのよ。」

「毎日、ご苦勞様です。」

声を掛けていただく時、近隣の方との会話が持てることが、本当に嬉しく思えます。照れくさが邪魔をしてほんのひとことが口から出なくて——「遊びにおいで下さいノ何もおかまいできませんが……」そんな言葉を口でモゴモゴ言いながら、気がつけばほんの二十〜三十分の道のりあつという間にホームにもどつてしまいます。

歩け歩け運動が始まって三年目。朝の三十分——早足で歩くのもよし、ゆっくりと歩くのもよし、心のアンテナをいっぱいに広げ一日のスタートに、きつと何か得られる（得ている）ハズです。脚、腰の痛みはあつても、昨日より少しだけたくさん歩く努力をして——明日も、そしてこれからもずっと続けられることでしょ



う。

ホームの皆さんノ足の運動も大切ですが、心のアンテナをのばしに頑張つて一歩外へ出ましょう。——それからご近所の皆さんノお宅のお庭の顔を毎日、楽しみにしているのです。少しだけのぞかして下さい。そしてどんどん私達にも声をかけて下さい。

（寮母 長野美鳥）

古寺名刹めぐり 高幡不動尊金剛寺

友 愛 荘

不動堂に手を合わせて

参拝をしているうちに、心配していた雨がついに降ってきた。一年一回の社会見学が無情にも雨とはなさなかった。やむ

今年の社会見学は、難航の末ようやく関東三大不動の一つ、高幡不動に決定した。

老人達は社会見学の日が近づいてくると、「去年は深大寺だったが、今年はどこですか」と質問が多い。社会見学の行事係としては、一年も前から候補地を検討しているが、なかなか良い所が見つからない、条件としては、古寺名刹であること、車椅子が入れること、友愛荘からあまり遠くないこと等々。これらの諸条件が満たされなければならぬから頭が痛い。古寺名刹には石段が付いてまわり、御飯に味噌汁と言う具合にはいかず誠に係泣かせである。

幾つかの候補地を検討した末、最終的に高幡不動に決定したわけである。

九月三十日、いよいよ老人十一名、園長以下職員六名、ボランティアの弥生会の方々等五名計二十二名は、三台の車に分乗し雨曇りの中十二時に出発した。到着後駐車場で全員集合し先ずは記念撮影。仁王門を入ると正面に不動堂（国の重要文化財）、その左に新築間もない五重の塔が美しく立っている。

なく宝物殿へ逃げ込んだ。宝物殿は五重の塔の地下にあり、入口はすべて階段、このため職員らは車を一台降ろすと階段を駆け上り、次の一台を降ろす。これを繰り返しようやく全員宝物殿に入った。

中はまったく静かで黒光りする仏像が、しずまり返って鎮座している。早速全員は、深々と頭を下げ手を合せて後生を願った。宝物殿の数々の文化財を興味深く拝観して外へ出たが、雨は容赦なく降り続く。仁王門へ一時避難することになった。車椅子の老人には傘をささせ、その介助者は、傘なしで移動しなければならなかった。相撲取りが着れるような特大のポンチョか、マントがあれば、老人をすっぽり包んで両者共々、雨に濡れず移動できるのになアーと思ったもした。

昼前、雨宿りも兼ねた昼食は、参道近くのそば処を予約しておいたので、そこで三三五五老人達は、自分の好物を注文した。久し振りに自分達の好きな物を食べられる昼食であった。昼食を食べている途中で雨が上った。老人達もすぐ気が付いた様子で、生気も戻り早々に話

し声も高くなった。食後は、付き添いが付いて一時間ほど自由行動をする。

老人二人と境内のあちこちを散策し、集合場所の駐車場近くの売店に戻ってくると、小さな売店は、まるで友愛荘の貸切りのようだ。老人達は、いろいろな理由で参加できなかった同室の老人達へのみやげを、どっさり手に持ってここにこしていた。

午後一時三十分、全員点呼。全員異常もなく定刻帰路についた。車中では老人達が来年の社会見学の候補地に花を咲かせていた。

諸条件を満たす候補地選びでまた頭を痛めなければならぬが、来年も老人達がよろこんでくれるような古寺名刹をさがしたい。

（寮父 高橋昭彦）

高幡不動尊金剛寺について

成田山新勝寺、阿夫利山大山寺、それと当山を関東三不動と呼ぶそうです。

寺伝によると、当山の歴史は紀元七〇〇年頃すでに開かれており、天平年間、行基によつて大日如来が安置され、貞観年間、（八五九年）慈覚大師が清和天皇の頼願により山上に不動堂が建立し、東国鎮護の霊場になったという。建武二年、大暴風のため不動堂が倒壊しその後現在の所に移建された。大日堂の外陣天井の「鳴竜」は、日光のものとともに有名である。

友愛荘の古寺 名刹めぐり

高幡不動宝物殿内の弘法大師像にねかずく
入所者たち



高幡不動境内の散策



入口前で記念撮影



投稿

読書と私

友愛 莊 鈴木テルヨ（89歳）

十年一昔とよく言います。短いようで長くもあり、今年で八十九歳になりますが、此の頃はさっぱり頭が働かず、昨日の事でもすっかり忘れる仕末。残念ながら自分と本との出逢いを思い出そうとしても、すぐには浮んで来ません。

子供のじぶんから本が好きで、私は親や友人から、よく本の虫といわれたものでした。少しずつ思い出してみますと、私が本を読み始めたのは、福島市に住んでいた十歳の頃、尋常小学校の三年生位だったと思います。最初、クラスの同級生から、童話の本を借りて夢中になりました。五歳も下の弟の子守りしながら、本が読みたくて町はずれの「しのぶ山」のふもとの小さな図書館へ通ったものです。はじめは、今でも皆に愛されている昔ばなしの浦島太郎など、日本の童話から始まり、それを全部読みきると外国のグリム童話へ移りました。そして、暇があればもう手当り次第なんでも読みました。二十歳前後の娘盛りの頃には、日本文学全集・西洋文学全集、それにむづかしい論語など、本であれば何でもよかったです。活字を読まな

いと何か淋しくて、眠れない……。本は私にとって心の糧でした。

昭和三十八年の秋、私達謡曲愛好グループの数名で、栃木県塩原温泉へ旅行したことがありました。鈴のついた名物馬車に乗ってすっかり童心にかえり、お伽話の世界の主人公になっていました。旧所名跡を見物していた時、突然同行者の三島さんから思いもかけない話が出ていたのです。かの有名な小説、不如帰の「武男は、私の兄がモデルなのよ。浪子は本名を信子と言って今、私の家の仏壇の中に祭られています。作者である徳富蘆花は、あの旅館で執筆していたのよ」と、こざっぱりとしたある旅館を指しての説明に一同びっくり。童話の世界から一変して、名作小説の情景に入り込んでしまっていたわけですから。

若い時に読んだ本の話題が、小旅行をする都度、追経験できるのも読書のお陰だと思っています。現在でも読む本は、推理小説等が主で例えば、横溝正史・島田一男等気楽に読めるものを、名古屋に住む長男から送られてくるのを楽しみにしております。

最近では、年のせいでしょうか腰痛に悩まされ、その薬代りにと本を読んでいます。少しでも寮母さんや職員の皆さん方に余計な面倒を掛けないように心がけております。何もできず、三度の食事を頂いて申し訳ないと思うにつけ、有難く毎日を送らせて頂いております。

父に教えられて

東京都ろうあ者更生寮

松坂 美千陽

私は四歳の時に病気で耳が聞こえなくなりしました。けれども学校は普通学校の中学まで行きました。話しをすることは、父から教えてもらいました。父はとても優しい人でした。七歳の時から二十八歳までは、言葉がまだ上手にしゃべれませんでした。だから自分一人で一生懸命、父の口を良く見て又、本を見ながら、アカルイ、アカルイ、アサヒ、アサヒとアーと大きなこえを出して練習しました。言葉がきれいに出来るようになったのは、三十八歳の時でした。

小学校と中学校の友達には、みんな私が耳も聞えない口もきけないから、ずいぶんいじめられました。耳つんば、バカといわれて泣きました。そして学校の帰りは外で遊んだことはありませんでした。でも今では皆に言葉がきれいだと言われますので、これからは頑張りなればと思います。また、皆からあなたのお父さんがえらかったのよといわれます。でも私は、大人になってから、わがままになってお父さんに悪いことをしてバカでした。そのお父さんも亡くなりました。本当にお父さんごめんなさい。父に言葉を教えられて、ありがとう。

うみ

友愛園

服部 弘

私達友愛十字会世田谷更生館と友愛園では、毎年夏に一度課外訓練旅行といって、仕事場を離れて山や海の空気の良いところへ行くのです。目的は仲間との親睦と社会見学です。

今年は千葉県の犬吠崎でした。写真のように、天気はよかったのですが肝心の灯台が工事中で残念だったです。海が荒く、遠くから見ても白い波が凄かったです。

いつも施設の中にばかりにいて、とかく外に出たことがない者にとっては、旅行が何よりも楽しみです。最近自然が失われて寂しく思います。でも残っている自然を大切に、私達がいつ行っても暖かく迎えてくれるような日本であつたら良いなあと思います。

「我は海の子」という歌をご存知ですか、小学唱歌の一つで、戦時中よくラジオから流れていたものです。この銚子の海を見て、私はまずこの歌を思い浮べました。この雄大な海を目の前に、心の中で歌っていました。

またクラシックの交響曲に「海」という名曲があります。昔から、世界の人々は海に憧れを

もっていたようです。

山もまた魅力がありますが、まわりを海で囲まれた日本に住んでいる私達は、もつともつと海のことを考えてみてもよいのではないでしょう

うか。

そんなことを考えながらバスに揺られて世田谷に帰って来ました。



銚子を訪ねて

世田谷更生館

中島 利博

肩よりも

高き夏草のびしま

潮騒の

波ひろがりて銚子沖

海荒く

犬吠崎の夏の沖

寄せ返す

白波荒く夏はゆく

遠くより

現れて見ゆ白波の

海灰色に 山も灰色

二人して

恋を成したる潮騒の

映画場面は この地ならむや

勉強会と私

慶応大学文学部

菅 谷 慈

私が世田谷更生館とライチウス会との「勉強会」に初めて参加したのは、大学に入学したての四月の終り頃でしたから、勉強会に参加するようになって、早いもので、もう二年半が過ぎてしまいました。

「早いもので」と書きましたが、ほんとうにあつという間だったような気がします。もつとも、ひとつひとつの思い出をたどっていけば、短いようでもやっぱりいろいろなことがありました。

灰谷健次郎曰く、「学ぶことは、変ること」である。私が、この二年半の時間を「あつという間」だったと感じるのは、私の中にエポック・メイキングな変化が起こっていないからなのかもしれません。とすると、私は、勉強会から学ぶべきことを学んでいない、ということになるのでしょうか。

更生館の方に「勉強会の先生」と呼ばれる私ですが、「先生」なんてとてもとても、私のほうこそ、人生経験においても、人間性の深さという点においても、何もかも、教えていただくことだらけなのです。学ぶことだらけのはずな

のです。二年半という時間をかけて、私は全く変わっていないのでしょうか。学ぶべきことを学んでいないのでしょうか。

と、ここまで考えて思い直してみました。変わったかどうかなんて、自分ではそうそう気づかないものなのだと。自分でも知らないうちに、すこしずつ、変わっているのかもしれない。私は更生館の勉強会を通して、たびたび、それまで知らなかったことに遭遇しました。そうして自分の無知さに気づかされるたびに、すこしずつ変わっているのかもしれない。それが良い方向（「良い」ということがどういうことなのか）もわかりませんが、への変化であればと思います。

再び灰谷健次郎によれば、自分の中にいっぱい他の人が住んでいる人が、良い人なのかもしれません。それはつまり、本当の優しさ本当の思いやりを知っている人ということなのでしょう。こう書くと何やら解ったような気がします。本当の優しさとは何なのか自分の中に他の人が住んでいるとはどういう状態なのか、まだまだ自分自身で体験できずにいます。

まだまだ、これからです。私の「勉強会」は、二年半かけて、やっとスタート地点にきたような気がします。まだまだこれからなのです。

詩

手

友愛園

坂 口 としお

わが手よ 右の手よ

今は生きる事がじやまそうに
ただ有るだけの我が手よ

何を考えているのか

脳出血による

右半身麻痺で

何もできない君が

私は可愛い

わが手よ 右の手よ

動かない事が判った時

私といっしょに泣いた

あの夜から

もう何日たつたらう

足は補装具で歩けるし

目も見える 耳も聞こえるのに

右の手だけは

どうしても動かない

動かない君を

切つてしまいたいといった私

わが手よ 右の手よ

一生 私と生きよう

これから

いつまでも

俳句

友愛ホーム俳句会より

講師 松本千鶴子選

着ぶくれて かざり気も失せ 老いしかな

いわの

雛祭 みな若やぎて 娛樂室

琴 女

余寒なほ きびしき朝の 庭掃除

梅雨寒の 会食やめて 針仕事

チ ョ

花点前 一期一会の ひとときを

壮之介

うねり来て またうねりゆく 青田風

弘 児

孫を背に 小川に香る 落長し

秀三郎

あじさいの 色よき花に 蝶ねむり

千 代

竹落葉 地藏に腹掛け 誰がせし

多賀子

夏蝶の 舞いゆく影や ダム工事

茂

友愛十字会主要行事

62・4・1・62・9・30

62・4・8

花まつり(友愛ホーム)

4・26

地域交流花見会(友愛荘)

5・5

利用者家族の集い(ろうあ更生寮)

6

端午の節句(友愛ホーム)

10

菖蒲湯(友愛ホーム)

11

端午の節句(友愛荘)

13

スポーツ交流ソフトボール大会(ろ

26

うあ更生寮)

29

地域交流ゲートボール大会(友愛

31

荘)

3

野外給食(友愛荘)

6

昭和六十二年第一回役員会

10

レクリエーション大会(友愛ホー

24

ム)

31

寮対抗競技大会(ろうあ更生寮)

3

東京都身体障害者体育大会(更生

10

館、友愛園、ろうあ更生寮)

24

映画会(友愛荘)

7・1

園長と入所者との懇談会(友愛

4

荘)

10

七夕まつり(友愛荘)

4

父兄会(更生館、友愛園)

10

社会見学、日産座間工場(ろうあ

更生寮)

7・13

盆法要(友愛ホーム)

28

野外給食(友愛荘)

29

納涼盆踊り大会(世田谷三施設

8・1・2

納涼盆踊り大会(ろうあ更生寮)

15

終戦記念日(友愛ホーム)

19

地域交流盆踊り納涼大会(友愛

28

荘)

29

課外訓練旅行(更生館、友愛園)

9・9

映画会(友愛荘)

12

野外訓練、広島(ろうあ更生寮)

13

敬老の集い(友愛荘)

15

敬老の日(友愛ホーム)

20

板橋区身障者スポーツ大会(ろう

22

あ更生寮)

25

彼岸法要(友愛荘)

27

世田谷更生館開所二十五周年記念

30

会食(更生館、友愛園)

30

彼岸法要(友愛ホーム)

27

合同運動会(世田谷三施設)

30

古寺名刹めぐり、高幡不動尊(友

愛荘)

手話講習会のお知らせ

「耳のきこえない人達」とふれあい、楽しみながら手話を覚えてみませんか！という呼びかけで、東京都ろうあ者更生寮では、手話講習会を始めました。

今年の十月十五日から来年の三月二十四日まで、毎週木曜日午後一時二十分から二時間、講師は板橋区登録通訳者清水紀子さんです。

今回の手話講習は、復習を多くとり入れていきますから、期間の途中から受講されても、都合で途中に休んでも大丈夫です。

手話は、「耳のきこえない人達との交流だけではなく、お友達と一緒に覚えれば、別れて反対側の駅のホームにいる友達と話忘れたときにも、大きな部屋の会合で席が離れている友達とも、大きな声を出さなくて、後で電話するわ」等の簡単な意思の伝達をすることができます。」

場所は、板橋区志村二の一九の五（都営三田線志村三丁目下車五分）更生寮集会所です。

是非時間をつくって参加して下さい。参加費無料、テキストも差し上げます。

問い合わせ電話（九六七―〇〇五二）

善意のかずかず

昭和六十二年度上半期中に、次の方々から善意の金品のご寄贈を頂き、また、入所者をご慰問下さいました。ここに心から御礼を申し上げます。

（寄付金）62・4・1～62・9・30

敬称略 あいうえお順

○世田谷関係

新井電気工業所 青柳菓子舗 安藤賢一 井上洋品店 井山建設 今井勇 石井徳成 石井アサ子 魚久 荏原流太 太鼓ひびき会 大蔵東部町会 オークラストアー 小方つね 大西洋子 小野坂豆腐店 太蔵湯 大蔵住宅自治会 越智通雄 河島春蔵 華華餐廳 河西昭安 カンキヨ一 笠原六郎 金子秀雄 加藤かずえ 貝塚富江 川上和子 祐教会 教会学校 祐町町会 祐商事 祐町自治会 小池英一 光寿会 小坂徳三郎 厚生車輛福祉協会 ささ家 進藤毅 作佐部広子 清水英雄 島田君子 世田谷区長大場啓一 世界救世教 聖文堂薬局 世田谷区身体障害者福祉協会 祐支部 世田谷通り 祐商店街振興組合 世田谷区身体障害者福祉協会 祖師谷南商店街振興

組合 高松商事睦会 タケミ設備

谷理髪店 タカハシ 高田照子 田沼しげお 太丸屋衣料 竹園 電気通信共済会 手島よしの 東京都用賀技能開発学院長加納武 同栄信用金庫世田谷支店 東京フェリス 東京太鼓連盟 内藤千紗子 長島光重 長崎愛子 内藤寿昭 日本福祉教育専門学校 沼尻善四郎 ハワイ支部 会長古藤重次郎 浜中米店 ひたちや精肉店 普濟寺 藤蔭静照 藤蔭会 本多シズエ 星野商店 ボヌー ル 本田設備 松本博之 前川栄子 松本千鶴子 ニッソ和会 森政子 八百周 柳屋商店 矢藤利男 山下英子 ヤクルト 横山青果店 養老の瀧祐大蔵店

○東京都ろうあ者更生寮

板橋区民踊連盟 世界救世教東京都本部 竹川幸 但木瀧雄 本山長才 山上源治郎

○友愛荘関係

宇津木コウ 小川忠治外 金田美恵子 草深千代子 小稗治 佐藤秀男 佐藤忠信 佐藤辰蔵 城南信用金庫原町田支店長 菅野昭正 図師寿会々々長 清楽会々々長 関根三次郎 升一 高見台健康友の会 会長 忠生新生会 徳山宮子 戸張善功 橋本好明 秀美会 社会福祉法人福音会 松本むめ 柚木トキ子

（寄付物品）

○世田谷関係

秋田順吉 荒川智恵 家塚佐多子 加藤清作 キリンビール 協和銀行 祖師谷支店 寿会 小山一俊 三和世田谷ヤクルト販売 関塚商店 竹中久一 第一興商 同栄信用金庫世田谷支店 東京ロータリークラブ 東京グリーンサービス協同組合 東京善意銀行 永田由美子 日本たばこ産業 野間忠夫 八桜会 原川電気 平田英子 真野英子 目黒星美学園 山本晴之介 友和会 読売新聞祐販売所 若葉会

○東京都ろうあ者更生寮

SG企画 海老沢玲子 清水善次郎 全国金属労組青年婦人協議会

竹川幸 日機装ケンコー 深瀬静雄
松坂千鶴子 小高喜美栄

○友愛荘

大塚千代美 河藤湧光 川根屋茶店
キリンビル(株) 島田良男 柴田一
幹 東京都食肉環境衛生同業組合
ふるさと渋谷少年社会参加推進委員
会 松屋 (株)ヤマザキ 八百源

(慰問)

○友愛ホーム

ガールスカウト東京91団 祐教会
学校 寿会 粋仙会 東京成城消
防署少年団 東京西ロータリーク
ラブ 日の出会 平岡会 若葉会

○友愛荘

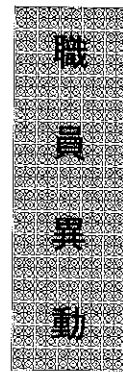
伊藤彩園 石川つぎ子 飯田豊治
大塚千代美 小山田桜台保育園
桜美林幼稚園 奥平由佳 小峰服
飾専門学院 相模原舞踊愛好会
桜井幸江 多々良武男 たんぼぼ
の会 秀美会 町田聖書教会 弥
生会 四ッ葉会

(招待)

○友愛ホーム

赤坂組合 朝日新聞東京厚生文化

事業団 新井グループ 第一勧業
銀行宝くじ部 東京ミュージック
ボランティア協会 藤川藤十郎
友愛十字会後援会



62・4・1 62・9・30

世田谷更生館

採用 指導員 工藤淑子 62・4・1
〃 調理員 望月光樹 62・4・1
〃 伊藤道子 62・4・1

友愛園

採用 栄養士 和田美智子 62・4・1
〃 調理員 広田明子 62・4・1
〃 石川千恵子 62・4・1
〃 指導員 松島信雄 62・5・1
退職 調理員 木浦良子 62・8・25

東京都ろうあ者更生寮

採用 指導員 寺田純一 62・6・1
退職 〃 本山長才 62・5・13

友愛ホーム

採用 寮母 鈴木 恵 62・4・1
転任 栄養士 舟塚 香 62・4・1

(友愛園より)

友愛荘
採用 指導員 大多和千代子 62・7・1



●機関紙「ゆうあい」を復刊して、
年二回の発行を予定しているの
ですが、少しづつ遅れながらやっと
六号を発行することができました。
この号から四頁増して投稿欄を多
くしました。関係者の皆さんの投
稿をお願いします。

●今や人生八十年時代。日本では
六十五歳以上のお年寄りの占める
割合は、およそ一割に達していま
す。世界各国のお年寄りの人た
ちが、何が自分にとって一番大切
なものと考えているのでしょうか。
●世界の六カ国のお年寄りを対象
に、総理府が行った調査によりま
すと、各国ともトップは「家庭・子
供」で共通しています。フランス、
八六・四％、日本八三・四％、イギ
リス七九・九％、アメリカ七六・五
％、韓国六二・二％、タイ二八・八％
と、その割合は異なっています。

●また「家族・子供」以外で大切
なものとして、日本や韓国のお年
寄りは、「国家」を挙げている一方、
イギリスでは「友人・近所づきあ
い」の比率が高く、タイ、アメリ
カ、フランスの場合は、「宗教・信
仰」と、各国で様々ようです。

●アジアと西洋の国々のお年寄
りの違いを大別してみますと、日
本を含め、アジアのお年寄りは、
国家や財産を比較的重視し、西洋
では、友人や仲間を大切にしてい
る。こうした傾向がこの調査のデー
タからみられるようです。
●あなたにとって大切なものは何
ですか。(山崎輝久記)

ゆうあい

六号

昭和六十二年一月一日 発行
発行 社会福祉法人友愛十字会
発行人 草原国司

〒157 東京都世田谷区砧
三丁目九番十一号
電話 (〇三) 四一六二二六